

〒561-0851 大阪府豊中市服部元町1-6-1 | tel : 050-7119-9176

e-mail : info@176.photos | web site : <https://176.photos/>

プレスリリース | 1839當代藝廊（台湾）× gallery 176（日本）交流展

ギャラリーの紹介

gallery 176は、2005年～2009年まで大阪・豊中市で運営されていた写真専門ギャラリーです。2016年9月17日（9月17日は、日本で最初にダゲレオタイプ（銀板写真）の撮影が成功した日です）に、元オーナーと7人の写真家の計8人（現在7人）で共同運営するギャラリーとして再開しました。

ギャラリーの詳細

ギャラリー名称：gallery 176（ギャラリー イナロク）

住所：〒561-0851 大阪府豊中市服部元町1-6-1

交通アクセス：阪急宝塚線 服部天神駅（梅田から11分）下車 徒歩1分

電話番号：050-7119-9176 | e-mail : info@176.photos | web site : <https://176.photos/>

写真展会期：通常は金曜初日～翌々週の火曜最終日の約2週間（実質10日間）

開廊時間：13:00～19:00

写真展開催中の休廊日：水曜、木曜

*写真展により異なる場合あり、写真展が開催されていない場合は休廊

ギャラリー運営メンバー

友長勇介、松原豊、布垣昌邦、木村準、西川善康、早川知芳、坂東正沙子（計7名）

1839當代藝廊（台湾）× gallery 176（日本）交流展

<https://176.photos/exhibitions/1908-09-ex-taipei/>

8月16日(金)～9月10日(火) 1839當代藝廊（台湾）× gallery 176（日本）交流展 in Osaka

8月16日(金)～8月27日(火)

趙炳文 Chao Bin-Wen 写真展「文明新景観 | 農村新景観・農舎」

<https://176.photos/exhibitions/190816/>

8月30日(金)～9月10日(火)

許曉薇 Hee Siow-Wey 写真展「花之器 The Vessel that Blossoms」

<https://176.photos/exhibitions/190830/>

8月10日(土)～9月15日(日) 1839當代藝廊（台湾）× gallery 176（日本）交流展 in Taipei

gallery 176 写真家6人 | それぞれの視点、それぞれの世界

<https://176.photos/activities/1908-09-ex-taipei-176/>

1839當代藝廊（台湾）× gallery 176（日本）交流展

展覧会概要：

gallery 176では、積極的に他のギャラリーやスペースとの交流展の開催を試みています。昨年は東京のTOTEM POLE PHOTO GALLERYと交流展を開催し、今年は、台湾の写真専門ギャラリー「1839 當代藝廊」との交流展を開催する運びとなりました。

8月から9月にかけて、大阪のgallery 176で台湾の二人の作家の写真展を開催し、台北の1839當代藝廊では、gallery 176の6名の作家の写真展を開催します。

タイトル：1839當代藝廊（台湾）× gallery 176（日本）交流展 in Osaka

出展作家：8月16日(金)～8月27日(火) 趙炳文 Chao Bin-Wen／

8月30日(金)～9月10日(火) 許曉薇 Hee Siow-Wey

会場：gallery 176（ギャラリー イナロク）

大阪府豊中市服部元町1-6-1／阪急宝塚線 服部天神駅(梅田から11分)下車 徒歩1分

会期：2019年8月16日(金)～9月10日(火)

休廊日：8月28日(水)、29日(木)

開廊時間：13:00～19:00

企画：gallery 176、1839當代藝廊 | キュレーション：邱奕堅（1839當代藝廊）

* 詳細は後述参照

タイトル：1839當代藝廊（台湾）× gallery 176（日本）交流展 in Taipei

出展作家：友長勇介、松原豊、布垣昌邦、西川善康、早川知芳、坂東正沙子 (gallery 176)

会場：1839當代藝廊／1839 Contemporary Gallery

10696 台北市大安區延吉街120號地下樓 (請由126巷進入)

B1, No. 120, Yanji Street, Da-an District, Taipei 10696, Taiwan, ROC

会期：2019年8月10日(土)～9月15日(日)

休廊日：月曜（8月12日、19日、26日、9月2日、9日）

開廊時間：11:00～19:00

企画：1839當代藝廊、gallery 176

* 詳細は後述参照

1839當代藝廊／1839 Contemporary Gallery（台湾 台北市）

1839 當代藝廊は、2009 年 4 月に台湾の台北市で開設されたギャラリーで、現在、台湾で唯一の写真メディアを専門に扱うギャラリーです。

「1839 當代」は、「写真が発明された 1839 年（ダゲレオタイプ／銀板写真の発明）から現在まで（from photography invention in 1839 to now）」を意味しています。

1839 當代藝廊は、多くの人々が写真に興味を持ち、写真作品に対する理解と評価を深めることを目的とし、台湾を拠点に、国内外の作家の写真作品を国内及び海外に紹介、展示しています。

邱奕堅 Dr. Edward Chiu（1839當代藝廊 オーナー）

2011 年～ TAIWAN PHOTO 実行委員会会長

2009 年～ 1839 當代藝廊オーナー

2011 年 東京芸術大学大学院美術研究科（先端芸術表現専攻）博士後期課程修了

1994 年 アカデミー・オブ・アート大学大学院美術研究科（写真表現専攻）修士課程修了（サンフランシスコ、カリフォルニア州、アメリカ）

1991 年 日本大学芸術学部写真学科卒業

gallery 176（ギャラリーイナロク、大阪府豊中市）

gallery 176 は、自主独立を旨とした、運営メンバー自身の発表の場です。しかしながら、運営メンバーの「自己満足」の場とはせず、積極的に外とのかかわりを模索し、交流を深め、「写真」に向き合う「場所」として運営しています。

gallery 176 では、運営メンバーの個展やグループ展はもとより、外部作家を招聘しての企画展や、他のギャラリーとの交流展（国内外問わず）も積極的に行っています。また写真展以外にも、映画上映会、写真販売会、写真を観る会等のイベント・ワークショップも開催しています。

我々の活動の場は、gallery 176 内に留まらず、日本国内、アジアなど、積極的に外へ展開しています。また、運営メンバー個々に於いても、gallery 176 を離れて、独自ギャラリーや教室運営といった活動を行っています。

2019 年は、運営メンバーによる写真展の他、写真集出版などの活動を充実させると共に、アジア在住の作家との交流展などを開催する予定です。

お問い合わせ先

1839當代藝廊（台湾）× gallery 176（日本）交流展に関するご質問、メディア掲載用画像の提供等のお問い合わせは、下記までお願い致します。

gallery 176（ギャラリー イナロク）

担当：西川善康

tel：050-7119-9176

e-mail：info@176.photos

1839當代藝廊（台湾）× gallery 176（日本）交流展 in Osaka #1

趙炳文写真展

「文明新景觀 New civilization landscape」

「農村新景觀・農舍 FARMHOUSE」

作家名：趙炳文 Chao Bin-Wen

会場：gallery 176（ギャラリー イナロク）

大阪府豊中市服部元町1-6-1／阪急宝塚線 服部天神駅(梅田から11分)下車 徒歩1分

会期：2019年8月16日(金)～8月27日(火)

休廊日：会期中無休

開廊時間：13:00～19:00

企画：gallery 176、1839當代藝廊 | キュレーション：邱奕堅（1839當代藝廊）



文明新景觀 New civilization landscape

© Chao Bin-Wen

作品説明：

趙炳文は、2018年に東京藝術大学大学美術館陳列館で開催された「台湾写真表現の今〈Inside/Outside〉」（共同キュレーター：邱奕堅）に出展した、台湾の新鋭写真家8人のうちの一人です。

「文明新景観 New civilization landscape」

現代の産業文明の発達によって、短期間で大量生産された複合遊具（すべり台など複数の遊具を組み合わせたもの）は、今日、どこでも見られるようになりました。それは、私たちの日常生活空間、公園に出現し、新しい都市風景を創出し、同時に人々の生活の中に深く溶け込んでいます。

カラフルな複合遊具は、コミュニティの建物や公園、子供たちの楽しい遊び場に囲まれています。時代の変化とともに、過去と現代では、遊び場の形式や建設方法、素材が異なります。複合遊具は多種多様に見えますが、多くは同じ種類の色違いであったり、同じ色で違う種類であったりと、大量生産された工業製品であるということを隠すことは出来ません。

したがって、様々な時代の複合遊具は、我々の異なる子供時代の記憶を思い出させる一つの新文明景観ではないでしょうか。

素早く組み立て、分解でき、取り扱いが簡単であるこれら複合遊具は、まさに現代産業の急速な発展を象徴しています。これら産業の発展は、人々の文明を変化させ、私たちの生活様式も変化させ、ファーストフード文化、ボーダーレス化、経済統合など、今日の世界を後戻りの出来ないグローバル化時代に導いています。



© Chao Bin-Wen

「農村新景観・農舎 FARMHOUSE」

2001年から、台湾では農業用地の農舎建設法の施行に伴い、農民は自分用の農舎を建設することができるようになり、農村地域の各所に急速に農舎が建てられました。これらの農舎は、この僅かの十年の間の、台湾の農村社会の変容と経済構造の変革の特徴を示しています。

趙炳文は、8 x 10の大型カメラを使い、タイポロジーの技法を工夫し、様々な個性的な農舎を同じ視覚効果、完全に統一されたセッティングで撮影しています。そして、農地の中に建てられている美しいバロック様式、モダン様式、現代的様式など、様々な異なるスタイルの農舎の、豪華で誇張された特別な「異相」を写し取り、新しい台湾の農村新景観としてまとめています。



© Chao Bin-Wen

展示構成：

タイプCプリント 17点（予定）

趙炳文 Chao Bin-Wen

1963 年 台北市生まれ

主な個展

2019 年『文明新景観』1839 當代藝廊、台北、台湾

2016 年『農村新景観・農舎』1839 當代藝廊、台北、台湾

2012 年『建築、非建築』1839 當代藝廊、台北、台湾

2010 年『橋の下』1839 當代藝廊、台北、台湾

主なグループ展

2018 年『台湾写真表現の今〈Inside/Outside〉』東京藝術大学大学美術館陳列館、東京、日本

2017 年 台湾大型カメラ創作学会 台北市立社教館、台北、台湾

2016 年 台湾大型カメラ創作学会 恆昶攝影藝廊、台北、台湾

2015 年 台湾大型カメラ創作学会 恆昶攝影藝廊、台北、台湾

2015 年 第五回 TAIWAN PHOTO『農舎』特別企画展、新光三越デパート文化会館、台北

2014 年 台湾大型カメラ創作学会 恆昶攝影藝廊、台北、台湾

2013 年 第二回 TAIWAN PHOTO 新光三越デパート文化会館、台北、台湾

2013 年 台湾大型カメラ創作学会 中壢藝術館、桃源、台湾

2011 年 台湾大型カメラ創作学会 恆昶攝影藝廊、台北、台湾

2011 年 第一回 TAIWAN PHOTO 新光三越デパート、台北、台湾

2010 年 台湾大型カメラ創作学会 爵士攝影藝廊、台北、台湾

2009 年 台湾大型カメラ創作学会 爵士攝影藝廊、台北、台湾

2008 年 台湾大型カメラ創作学会 爵士攝影藝廊、台北、台湾

2008 年 韓国大邱國際フォトビエンナーレ、大邱、韓国

2007 年 台湾大型カメラ創作学会 台北市立社教館、台北、台湾

受賞

2008 年 台湾撮影芸術新人賞佳作、台湾フォトアート学会

1994 年 第 8 回全国油畫美展入選

1991 年 第 5 回南瀛美展（油畫）入選

1988 年 第 44 回全省美展（油畫）入選

1983 年 第 39 回全省美展（油畫）入選

雑誌掲載

2008 年 9 月 當代藝術新聞

2010 年 2 月 典藏今藝術

関連イベント

トークイベント：趙炳文 × 邱奕堅（本展キュレーター）

開催日時：2019年8月17日(土) 15:00～16:30

料金：1,000円

定員：25名（要予約）

オープニングパーティー

開催日時：2019年8月17日(土) 17:00～19:00

料金：無料

1839當代藝廊（台湾）× gallery 176（日本）交流展 in Osaka #2

許曉薇写真展

「花之器 The Vessel that Blossoms」

作家名：許曉薇 Hee Siow-Wey

会場：gallery 176（ギャラリー イナロク）

大阪府豊中市服部元町1-6-1／阪急宝塚線 服部天神駅(梅田から11分)下車 徒歩1分

会期：2019年8月30日(金)～9月10日(火)

休廊日：会期中無休

開廊時間：13:00～19:00

企画：gallery 176、1839當代藝廊 | キュレーション：邱奕堅（1839當代藝廊）



馨花盛、Bloom #01、2016年

© Hee Siow-Wey

作品説明：

「花之器 The Vessel that Blossoms」は、台湾の女性写真家 許曉薇 によって、2015年から制作されている作品です。また、彼女は、2018年に東京藝術大学大学美術館陳列館で開催された「台湾写真表現の今〈Inside/Outside〉」（共同キュレーター：邱奕堅）に出展した、台湾の新鋭写真家8人のうちの一人です。

許曉薇が作品制作に至るまでには、特別な背景があります。彼女は、2011年に台湾大学で分子医学博士の学位を取得したが、同年、病気になり、これまで規則正しく生きてきた人生の意味を再考し始めました。そして、サブカルチャーに関わる撮影を始めました。

「花之器」では、彼女が自らの身体を花器として使っています。そして、自分と花の自然の姿の組み合わせ、動きを表現し、人と自然との融合を伝えています。その制作過程において、彼女は、作品に自分自身の内なる感情を込めており、花は単なる自然の存在ではなくなっています。花と花器（彼女）が創り上げるフラワーアレンジメントには、特別な意味、より深いお互いの相関関係を感じ取ることができます。

展示構成：

インクジェットプリント 16点（予定）



竹月洞、Mooncave #02、2016年（左）／蓮月洞、Mooncave #03、2016年（右）



佛花盛、Bloom #04、2018年

© Hee Siow-Wey

許曉薇 Dr. Hee Siow-Wey

1974 年 マレーシア生まれ

学歴

2011 年 国立台湾大学大学院分子医学研究所博士後期課程修了、台北、台湾

仕事

2011 年 国立台湾大学付属病院ポスドクトラルフェロー、台北、台湾

個展

2020 年 《花之器》KKAG、東京、日本（予定）

2019 年 《花之器》gallery 176、大阪、日本

2019 年 《花之器》1839 當代藝廊、台北、台湾

グループ展

2019 年 《吟花》【靜之華】攝影藝術展、亞億藝術空間、台北、台湾

2018 年 《花之器》「掠像」と「造像」展、国立台湾藝術大学国際展示ホール、台北、台湾

2018 年 《吟花》台北アートフォトショー、華山 1914 文化創意產業園區、台北、台湾

2018 年 《花之器》台北アートフェア、台北貿易センター 1 号館、台北、台湾

2018 年 《花之器》TAIWAN PHOTO、新光三越デパート文化会館、台北、台湾

2018 年 《台湾写真表現の今〈Inside/Outside〉》東京藝術大学大学美術館陳列館、東京、日本

2016 年 《花之器》台北アートフォトショー、華山 1914 文化創意產業園區、台北、台湾

2016 年 《彼岸天堂》プライベートな傷跡展、中正紀念堂、台北、台湾

2015 年 《戦士》アジア地域第一回ビーディーエスエム（BDSM）性欲と文化シンポジウム、国立台湾大學、台北、台湾

2014 年 《タンスの中の人》フォルモサ・アートフェア、ハンプルハウス台北ホテル、台北、台湾

2014 年 《タンスの中の人》台北アートフォトショー、華山 1914 文化創意產業園區、台北、台湾

2014 年 《タンスの中の人》ポルノヌード写真藝術展、華山 1914 文化創意產業園區、台北、台湾

2014 年 《靈魂を縛られる》「レトロ・コンテクスト（Retro Context）」展、中山創意基地、台北、台湾

受賞

2011 年 フランス PX3 国際写真コンテスト 1 榮譽獎

2011 年 アメリカ IPA 国際写真コンテスト 3 榮譽獎

出版物

2014 年 《櫃子裡的人》

web サイト

<https://hee.format.com>

関連イベント

トークイベント：許曉薇 × 邱奕堅（本展キュレーター）

開催日時：2019年8月31日(土) 15:00～16:30

料金：1,000円

定員：25名（要予約）

オープニングパーティー

開催日時：2019年8月31日(土) 17:00～19:00

料金：無料

1839當代藝廊（台湾）× gallery 176（日本）交流展 in Taipei
gallery 176 写真家6人 | それぞれの視点、それぞれの世界

出展作家：友長勇介、松原豊、布垣昌邦、西川善康、早川知芳、坂東正沙子 (gallery 176)

会場：1839當代藝廊／1839 Contemporary Gallery

10696 台北市大安區延吉街120號地下樓 (請由126巷進入)

B1, No. 120, Yanji Street, Da-an District, Taipei 10696, Taiwan, ROC

会期：2019年8月10日(土)～9月15日(日)

休廊日：月曜（8月12日、19日、26日、9月2日、9日）

開廊時間：11:00～19:00

企画：1839當代藝廊、gallery 176

展覧会概要：

1839當代藝廊（台湾）× gallery 176 交流展として、台北の1839當代藝廊にて、gallery 176の6名の作家の写真展を開催します。（同時期に、大阪のgallery 176にて、台湾の二人の作家の写真展を開催します）

1839當代藝廊では、gallery 176の6名の作家が、それぞれの最新作、代表作を展示します。6名のうち3名（友長、松原、西川）は、2017年、2018年のTAIWAN PHOTOに参加しており、既に台北にて作品を発表済みですが、他の3名（布垣、早川、坂東）は、台北での初の展示となります。

台湾・台北の人たちに、日本・大阪の作家の作品がどう受け入れられるか、またはどう評価されるか否か、私たち自身もとても興味があります。

8月から9月は、夏休み、お盆休みと旅行に行かれることが多いと思いますが、もし、台湾・台北にお越しの際は、ぜひ、1839當代藝廊に立ち寄り、私たちの作品をご覧ください。

関連イベント

オープニングパーティー

開催日時：2019年8月10日(土) 14:30～

料金：無料

出展作家紹介

友長 勇介

作品タイトル「沖縄」



© TOMONAGA Yusuke

作品説明

私が初めて沖縄を意識したのが、原一男監督の「極私的エロス・恋歌 1974」に出演している武田美由紀がコザの街を歩く粗いモノクローム映像を見た時です。
それから 10 年、写真家東松照明の沖縄の作品に出会い、カメラを持って沖縄に向かいました。
2002 年から 2007 年まで毎年沖縄へ通い撮影した作品です。

略歴

大阪府豊中市在住、gallery 176 オーナー、写真家、映像作家

1994 年 中国北京電影学院漢語科修了

1996～97 年 映画監督原一男作品「映画監督浦山桐郎の肖像」に助監督として参加

1998～99 年 （株）サウンドデザインユルタ 録音技師弦巻裕、滝澤修の録音助手

2000 年 東京工芸大学芸術別科写真専攻修了

2000 年 コニカフォト・プレミオ「北京溶解」コニカプラザ(東京)

2000 年「からだの学校・コルプス 16 期展」the deep（監修森山大道）（渋谷）

2001 年 第 17 回 3.3 坪(ひとつぼ)展「終焉」ガーディアン・ガーデン（東京）

2005～09 年 写真専門ギャラリー「gallery 176」運営

2006 年「new visions of japanese photography」展 巢雅 gallery(上海)

2010 年「占領期雑誌フォトス vs 現代若者の眼力(めぢから)」展 早稲田大学（東京）

2011 年 映画「新世界の夜明け」（監督リムカーワイ）プロデューサー担当（東京）

2013 年「Landscape of Particle 粒子の景色」展 新潟絵屋(企画石井仁志)（新潟）

コレクション

清里フォトアートミュージアム（2000 年、2001 年、2003 年）

東京工芸大学写大ギャラリー/上海視覚芸術大学/延辺大学芸術学院

gallery 176 関連展示

2016 年 gallery 176 再開企画「176 reborn」（gallery 176）

2017 年 よしとみフォトフェスティバル（吉富ノ庄、京都府南丹市）、写真展「写真素志」（gallery 176）、TAIWAN PHOTO 2017「複眼凝視」（新光三越、台北市、台湾）

2018 年 よしとみフォトフェスティバル（吉富ノ庄、京都府南丹市）、TAIWAN PHOTO 2018「猫」（新光三越、台北市、台湾）

2019 年 よしとみフォトフェスティバル（吉富ノ庄、京都府南丹市）、写真展「沖縄」（gallery 176）

松原 豊

作品タイトル Local public bath "Sento"



霊泉湯 / Reisenyu, 2014

© Matsubara Yutaka

作品説明

日本には独特の庶民文化「銭湯=公衆浴場」という場所が存在しています。私は在住地三重県（伊勢神宮や鈴鹿サーキットのあるところ）に在る銭湯の記録撮影を続けています。施設と経営者の高齢化などで減少の一途をたどっている銭湯ですが、そこは男風呂、女風呂で壁面の絵柄が違っていることも多くデザインとしても面白く楽しい。また古い銭湯には使い続けられた場所特有の（例えば壁面に入ったひび割れたタイルのように）時間経過や生活感を感じさせてくれる部分が多く残っていて施設固有の歴史が刻み込まれています。まもなく消え去ろうとしている日本庶民生活文化「銭湯」の姿を細密描写で記録した写真でお届けします。

撮影 4x5inch 大型カメラ、アナログフィルム使用

略歴

1967 年三重県生まれ、写真専門学校（名古屋ビジュアルアーツ）卒業後カメラマンアシスタントなどを経てフリーランスになる。現在、三重県津市に在住しながら作品制作をしている。

2013 年第 62 回伊勢神宮式年遷宮（御遷宮対策委員会）記録撮影担当

専門学校名古屋ビジュアルアーツ非常勤講師

公益社団法人日本写真家協会会員

gallery 176（大阪）運営メンバー

私設 写真好學研究所所長（三重県津市美里町）

gallery0369（三重県津市美里町）オーナー

写真集、本

2011 年写真集「村の記憶」（月兎舎）出版

共著

2012 年写真集「生きる」 - 東日本大震災から 1 年 - （公益社団法人日本写真家協会編）

2015 年植島啓司氏（宗教人類学者）との共著「伊勢神宮とはなにか日本の神は海からやってきた」（集英社ビジュアル新書、撮影担当）

個展

2011 年 写真展「村の記憶」（新宿、大阪ニコンサロン）

2011 年 写真展「路地の湯」（HCL 名古屋ギャラリー）

2019 年 写真展「EURASIA 2004 winter」巡回展（HCL Nagoya Gallery、名古屋）

グループ展

2012 年 写真展「生きる」 - 東日本大震災から 1 年 - （公益社団法人日本写真家協会／東京、仙台、ドイツ Photokina）

連載

ムロウノクニ（KUMANO JOURNAL）

賞

2012 年「村の記憶」三重県津市文化奨励賞受賞

2012 年「村の記憶」林忠彦賞候補最終ノミネート

gallery 176 関連展示

2016 年 gallery 176 再開企画「176 reborn」（gallery 176）

2017 年 よしとみフォトフェスティバル（吉富ノ庄、京都府南丹市）、TAIWAN PHOTO 2017「Local public bath "Sento"」（新光三越、台北市、台湾）、写真展「Local public bath "Sento"」（gallery 176）

2018 年 よしとみフォトフェスティバル（吉富ノ庄、京都府南丹市）、写真展「青森」・幻灯会「青森」（gallery176）、TAIWAN PHOTO 2018「Local public bath "Sento"」／「恐山」（新光三越、台北市、台湾）

2019 年 よしとみフォトフェスティバル（吉富ノ庄、京都府南丹市）、写真展「EURASIA 2004 winter」（gallery176）

web サイト

<https://www.matsubara-yutaka.com/>

布垣 昌邦

作品タイトル「osaka」



© NUNOGAKI Masakuni

作品説明

生まれ育った街の記録
(2007-2017)

略歴

大阪府茨木市在住

写真家

2003 年 ビジュアルアーツ写真学科夜間部卒業

2007 年 コニカミノルタフォトプレミオ受賞

2008 年 洛中洛外観察日記 個展（gallery 176）

2012 年 生と志（How are you photography 展・同時代ギャラリー）

2014 年 noah（ギャラリー10:06）

2015 年 route_31（How are you photography 展・同時代ギャラリー）

その他、現在までコンスタンスに個展開催

gallery 176 関連展示

2016 年 gallery 176 再開企画「176 reborn」（gallery 176）

2017 年 写真展「青の時代」（gallery 176）

2018 年 交流展「洛中洛外観察日記 其の弐」（TOTEM POLE PHOTO GALLERY、東京）

2019 年 写真展「洛中洛外観察日記 其の弐」 (gallery 176)

西川 善康

作品タイトル「in the garden」



private garden, kyoto, 2013
© NISHIKAWA Yoshiyasu

作品説明

英語の”garden”という言葉の語源は、古代ヘブライ語の防御するという意味の”gan”と、悦び（よろこび）、愉しみ（たのしみ）という意味の”eden”です。いわば、庭園（garden）とは、「安全で快適な場所」であり、「人間にとっての理想世界」をイメージさせるものです。（参考文献：進士五十八（しんじ・いそや）著「日本の庭園」）

私は、その庭園（主に日本庭園）で、歩き回りながら写真を撮り続けています。園路をひたすら歩き、立ち止まり、再び歩く、それを繰り返します。歩くにつれて視線が移動し、視野が変わり、新たな風景が見えてきます。その途中で、見え隠れする樹々や石、苔、突然現れる水の流れなど、その場その場の風景を切り取っています。

この作品は、理想世界である庭園で、私が自らの内なる美意識を信じ、美しい、心地良いと感じて切り取った、理想的な風景の断片です。

略歴

大阪府枚方市在住

デザイナー、写真家

千葉大学園芸学部造園学科卒業

2000～2001 年 インターメディアウム研究所（IMI）にて写真、デザインを学ぶ

2000 年～ フリーで写真撮影、ビデオ撮影及び編集、web 及び印刷物デザイン等を行う

2001 年 グループ展 Photo Exhibition Horie 2001「見えない街 -sense of place」（堀江、大阪）

2002～2005 年 写真専門ギャラリー「NADAR」にスタッフとして参加

2002 年 二人展「融解／昇華」（NADAR、大阪）

2010 年～ 京都の造園会社の依頼により、日本庭園の写真及び映像撮影を行う

gallery 176 関連展示

2016 年 gallery 176 再開企画「176 reborn」（gallery 176）

2017 年 よしとみフォトフェスティバル（吉富ノ庄、京都府南丹市）、写真展「こどもかるた」（gallery 176）、TAIWAN PHOTO 2017「garden materials」（新光三越、台北市、台湾）

2018 年 よしとみフォトフェスティバル（吉富ノ庄、京都府南丹市）、TAIWAN PHOTO 2018「植物 plants」（新光三越、台北市、台湾）、写真展「DAVAO 1996-1999」（gallery 176）

2019 年 よしとみフォトフェスティバル（吉富ノ庄、京都府南丹市）、写真展「DAVAO 2019」（gallery 176）

web サイト

<https://mitikusa.net/>

早川 知芳

作品タイトル「静かの海 Mare Tranquillitatis」



The sea of COVENANT 2018
© HAYAKAWA Tomoyoshi

作品説明

海に対峙する釣人のドキュメント。

釣人は何故、海に対峙し続けるのか？

「釣り」から人間を考察する。

略歴

大阪府河内長野市在住

釣人

大阪芸術大学中退

公益社団法人日本写真協会（PSJ）会員

1995年に大学を休学し、パリ、テルアビブ、エルサレム、ヨルダン川西岸地区と渡り歩く。旅費と生活費と帰国費用はテルアビブの日本料理店で2ヶ月無休で働き得る。帰国後、大学を退学する。

2000年に約1年間、南米に滞在する。ブラジルに拠点を置きアマゾン河で釣りをしたりアンデス山脈をバスで越えたり、イースター島へ渡ったりして過ごす。

帰国後、広告写真家の助手になり後に独立し現在に至る。

2012年より京都写真クラブ主宰 **How are you, PHOTOGRAPHY?**展に参加

2013年より大阪写真月間 150 人一坪展に参加

2016年 宝号山稱念寺の平成大修理の記録撮影・竣工撮影・落慶法要撮影・記念写真集作成を担当する。

2016年 APA アワード 入選

NPO 法人ジャパングームフィッシュ協会（JGFA）会報誌の表紙担当など

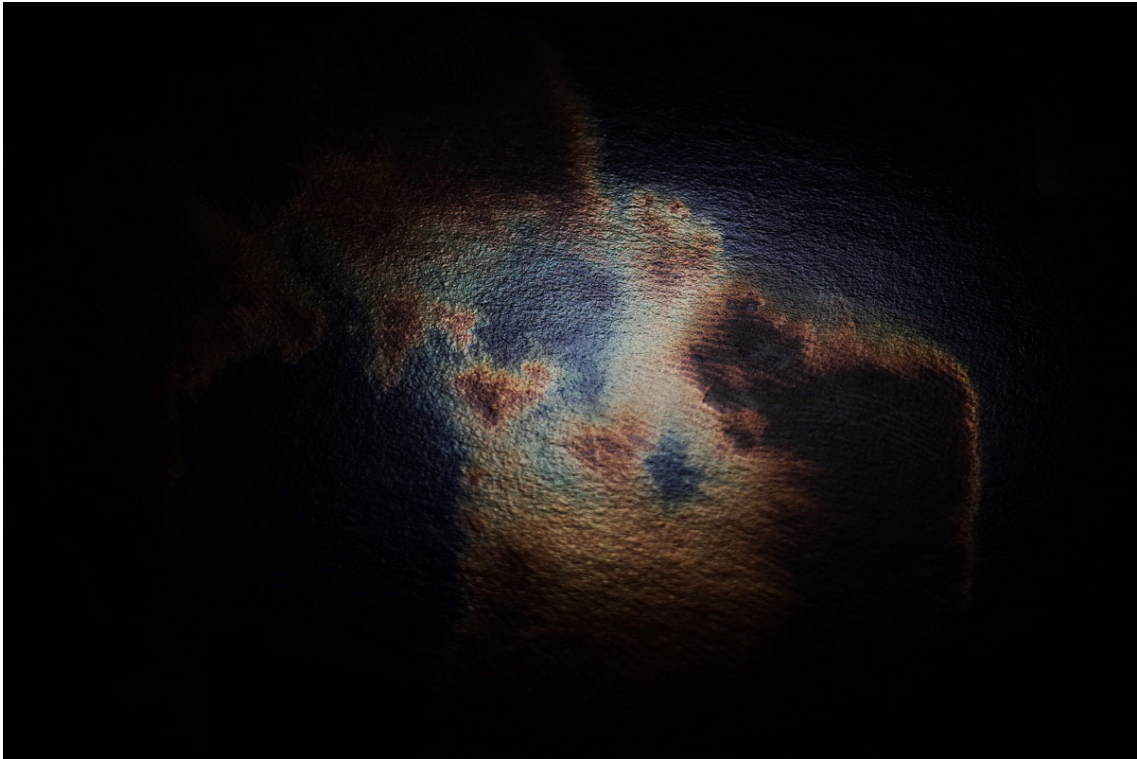
gallery 176 関連展示

2018年 よしとみフォトフェスティバル（吉富ノ庄、京都府南丹市）、写真展「静かの海 Mare Tranquillitatis」（gallery 176）

2019年 よしとみフォトフェスティバル（吉富ノ庄、京都府南丹市）

坂東 正沙子

作品タイトル「Invisible mass」



Invisible mass, 2019（習作）
© Masako Bando

作品説明

現像過多により失われかけた像は辛うじて粒子の屑となつてとどまった。
その屑には私の思念や感情が含まれており、どんなに形が変わろうと消滅しようとそこにエネルギーは在り続けると信じている。
質量保存の法則に従い「見えざる質量」の視覚化をすべく、錬金術の様にモノクロ印画紙から黄金色を生み出した。

略歴

大阪府寝屋川市在住

写真家

2008 年 個展「sublimate」 galleria-punto（岡山）

2009 年 グループ展「同時代展」 同時代ギャラリー（京都）

gallery 176 関連展示

2019 年 よしとみフォトフェスティバル（吉富ノ庄、京都府南丹市）、写真展「月讀」（gallery 176）

web サイト

<http://masakobando.com/>